

附属病院ご利用のみなさまへ

●医学部附属病院の財務内容など

医学部附属病院の収益構造を見ると、附属病院収益が約247億円で医学部附属病院の業務収益(約350億円)の約71%を占めており、引き続き、附属病院収入の増収が病院経営における重要な課題となっています。

平成19事業年度においては、患者数が前年度に比べ入院で約2.2%減少しましたが、外来で約1.8%増加し、全体としては約0.3%増えていることなどから、収入が約0.7%増えています。損益としては、約19億円の経常利益が計上されていますが、資金の裏付けのない帳簿上の利益約23億円などが含まれています(5ページ参照)。病院経営については、毎年、経営改善係数2%(法人化後、運営費交付金が累積13億5千万円減少)の影響もあり、厳しい環境となっています。

また、受託研究等の外部資金獲得にも力を注いでおり、受託研究等収益は約5億円増となっています。

年度当初の医薬品及び診療材料(たな卸対象品)は約4億9千万円でしたが、期末においては約4億円と、約9千万円を削減しており、医薬品及び診療材料の管理の効率化を図りました。また病院収益に対する比率は約1.6%となっています。

●平成19年度の取り組み

■患者アメニティの改善等

医学部附属病院では、患者サービスの観点から患者アメニティの改善等に積極的に取り組んでいます。

平成19事業年度では、外来患者さんへの環境改善のため、レストランをリニューアルし席数を増やすとともに、外来診察の待ち時間における憩いの場として、外来棟正面玄関横にくつろげる机・椅子を配置したウエルネスエリアを設置しました。

また、医学部附属病院における看護の取り組みを通して、高度医療の提供内容を広く市民に知って戴くため、「看護フェア」を実施し、平成19事業年度からは、さらに他の部門も参加し、「オープンホスピタル」としての取り組みを開始しました。

■先進医療及び社会貢献の推進

医学部附属病院では、標準的な治療の施行のみでなく、先進医療の推進も重要な使命であり、新たな治療法、新

附属病院収入

(単位:百万円)

区分	17年度	18年度	19年度	増減率
附属病院収入	23,886	24,519	24,680	0.7%

患者数

(単位:人)

区分	17年度	18年度	19年度	増減率
入院	361,860	371,061	362,849	△2.2%
外来	597,553	611,335	622,233	1.8%
計	959,413	982,396	985,082	0.3%

※上記患者数は本院と保健診療所を合わせたものです。

附属病院セグメント情報

(単位:百万円)

区分	金額
教育経費	27
研究経費	1,022
診療経費	15,971
受託研究費	1,452
受託事業費	35
人件費	13,271
一般管理費	207
財務費用	1,130
雑損	0
業務費用(計)	33,115
運営費交付金収益	7,007
附属病院収益	24,712
受託研究等収益	1,561
受託事業等収益	35
寄附金収益	909
その他	780
業務収益(計)	35,004
業務損益	1,889

※上記業務損益には、資金の裏付けのない帳簿上の利益約23億円などが含まれています(5ページ参照)。

医薬品及び診療材料比率

1.6%

= 医薬品及び診療材料(399百万円)

／附属病院収益(24,712百万円)

※年度比較については31ページ参照



ウエルネスエリア

薬の開発に向けて探索医療センター※1が中心となり、研究を支援するとともに、臨床応用のための基盤整備等の充実を図っています。

先進医療の推進として、「医師主導の新薬治験※2」に取り組んでおり、治療法の確立した「肝・肺移植」・「強度変調放射線治療※3」等については、先進医療として実施しています。

また、医師や医療従事者の卒後研修にも力を注ぎ、将来の日本の医療レベル向上※4に尽力しています。

さらには、がんセンターを設置し、高度ながん医療の提供を行っています。

これらの先端医療を行う基盤整備の一つとして、世界最高水準の定位放射線がん治療装置「ノバリス」※5を導入し、平成19年2月から多くの患者さんに対する治療を行っています。また、新病棟※6の新築を進めています。

- ※1 院内に設置されている「探索医療センター」においては、全国の拠点的なセンターとして、基礎研究成果を用いた新医療の開発を推進しています。
- ※2 新薬の治験は企業主導でありましたが、平成15年の薬事法改正により医師主導の治験が可能となりました。
- ※3 放射線量の強弱を調整することにより正常組織への被曝を軽減、病変部のみを高線量を照射する治療法です。
- ※4 医師等の養成に関しましては、医学研究科・医学部を中心とする卒前教育に加え、院内に設置されている「総合臨床教育・研修センター」が中心となり、医師、薬剤師、看護師、コメディカル等の卒後教育を推進し、医師等の養成に努めています。
- ※5 定位放射線がん治療装置「ノバリス」(全国に10台しか導入されておらず、国立大学病院では、本院のみです。)は、頭部・頸部だけでなく、脊椎や肺、肝臓、前立腺等の体幹部への治療にも適用可能な定位放射線がん治療装置で、特に早期肺がんに対する新しい治療法として急速に普及しています。
- ※6 先進医療の推進に向けての新病棟建設を計画中です。(寄附により、がんを中心とした先進医療病棟の建設を進めています。)

●寄附による新病棟の建設

山内溥氏(任天堂株式会社相談役)から75億円のご寄附を受け、医学部附属病院の新病棟の建設を進めています。医学部附属病院の病棟を寄附により建設することは、国立大学法人にとって初めての事です。

医学部附属病院は平成11年に外来診療棟が新設されましたが、病棟に関しては一部老朽化や分散という問題があり、新病棟の整備とともに病棟の一元化を図る構想を検討していました。

この度、山内溥氏からのご寄附を受けて建設する新病棟は、この構想実現の第一歩として患者アメニティを重視した高度先進医療・最先端医療を実践するための適切な環境を提供するものであり、集学的ながんの治療を行うことを中心とした先進医療病棟として、平成22年5月の開院を目指しています。

高度な移植医療

(単位:件)

区分	17年度	18年度	19年度	これまでの実績
膵島移植	5	3	0	20
肝移植	78	77	65	1,317
肺移植	1	0	0	8

先進医療(高度先進医療)

(単位:件)

区分	17年度	18年度	19年度
インプラント義歯	2	2	1
腹腔鏡下前立腺摘出手術	6	平成18年4月から保険適用	0
脳死肺移植	1	平成18年4月から保険適用	0
強度変調放射線治療	—	54	107
顎顔面補綴	—	—	0
眼底3次元画像解析	—	—	420
超音波骨折療法	—	—	1
セメント固定人口股関節再置換術におけるコンピュータフルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	—	0
膀胱水圧拡張術	—	—	1



定位放射線がん治療装置「ノバリス」



新病棟(完成イメージ)